

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 2月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	0170504047		
法人名	有限会社 ケイアンドケイ		
事業所名	グループホーム いちえ		
所在地	札幌市清田区美しが丘5条5丁目9番27号 (電話) 011-881-3521		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年2月12日	評価確定日	平成22年2月27日

【情報提供票より】(22年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>(平成)</u> 18年 3月 25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	13人、非常勤 3人、常勤換算 14.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1 ~ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費:18,000円 暖房費:6,000円(11-3月)	
敷金	有(円)	<u>(無)</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>(有)</u> 90,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / <u>(無)</u>	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり			円

(4) 利用者の概要(2月 12日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	4 名	要介護2	5 名			
要介護3	3 名	要介護4	5 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	80 歳	最低	50 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	紺野整形外科クリニック、里塚病院、にひら歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームいちえ」は札幌郊外の新興住宅地に位置し、雑木林や公園に囲まれ、自然豊かな環境に恵まれている。建物は多目的なフロアや部屋などを備えた余裕のあるスペースを有している。廊下がV字型に交わる特徴のある設計で、居間や台所から全体が見渡せるようになっている。トイレの手すりや洗面所の水道の蛇口が場所によって位置や形が異なるなど、利用者ごとに使い勝手を合わせられるようにしている。地域とのつながりを重視し、町内会とは良好な関係を築いている。職員の教育に力を入れ、事業所内では毎月の定例勉強会のほかにも適宜ミニ勉強会を行い、外部研修にも多数参加している。自己評価への取り組みと外部評価の結果に対する対応も真摯で、着実に改善に結び付けている。書類は良く整備されている。職員の言動は礼儀や心遣いが行き届いており、職員相互間の信頼関係が厚く、利用者との間に温かい家族的な雰囲気が作られている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、事業所内行事への地域住民参加、運営推進会議での勉強会、職員異動・離職の家族への報告、同業者交流への一般職員の参加、介護計画の家族への迅速な提示、を提起したが全てについて着実に取り組み、改善の実現ないし前進が見られている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価表は会議で趣旨を説明した上で全職員に配布し、記入されたものを管理者がまとめて作り上げた。評価は各職員の日ごろの業務の振り返り、反省の手がかりとして活用されていると同時に、実際に業務の改善に結び付けてサービスの質向上に反映させている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議では、事業所から利用者の出入り、活動内容、自己・外部評価の内容などを報告し、町内会から行事や地域の動向についての情報が寄せられる。災害対策・避難訓練についての地域の協力についても協議される。地域の参加者からは多くの貴重なアドバイスが提起されて事業所の運営に反映されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 各ユニットの入口に意見箱を設置しているが、多くの意見は家族が来訪した際や電話での話し合いの中から聞き出される。家族から提起された意見は連絡帳に記載すると同時に、重要と判断されたものは報告書を作成して管理者を中心に対策を協議し、結果を家族に報告し、全職員に周知する。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、夏祭りや秋の運動会などの行事やごみ拾いなどに参加し、また回覧板のやり取りを行っている。子ども110番の家を引き受け、駆け込みの場を提供している。災害避難訓練には町内会役員も参加し、近隣の住民にも参加を呼びかけている。事業所で行う夏の花火大会や餅つき大会には近隣住民も参加して交流している。近くの保育園とも交流を進めているところである。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ケア理念として、住みなれた地域で家庭的な雰囲気の下、認知症の症状を緩和し、尊厳を保ち、持っている力を最大限に引き出してゆっくり、楽しく、一緒に生活の再編を目指す、との内容を掲げている。さらにこれを受けて年度ごとの事業所目標と各ユニットの目標を掲げ、向上を目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と目標は事務所内に掲示すると共に、カンファレンスやモニタリングなどの際に、掲示を見ながら確認し合っている。新入職員には理念を詳しく説明して基本姿勢を身に付けさせている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、夏祭りや秋の運動会などの行事やごみ拾いなどに参加し、また回覧板のやり取りを行っている。子ども110番の家を引き受け、駆け込みの場を提供している。災害避難訓練には町内会役員も参加し、近隣の住民にも参加を呼びかけている。事業所で行う夏の花火大会や餅つき大会には近隣住民も参加して交流している。近くの保育園とも交流を進めているところである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は会議で趣旨を説明した上で全職員に配布し、記入されたものを管理者がまとめて作り上げた。評価は各職員の日ごろの業務の振り返り、反省の手がかりとして活用されていると同時に、実際に業務の改善に結び付けてサービスの質向上に反映させている。外部評価で提起された課題に対しては全てに渡って改善に取り組み、実現ないし前進させている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、事業所から利用者の出入り、活動内容、自己・外部評価の内容などを報告し、町内会から行事や地域の動向についての情報が寄せられる。災害対策・避難訓練についての地域の協力についても協議される。地域の参加者からは多くの貴重なアドバイスが提起されて事業所の運営に反映されている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政上の手続きなどの際にはできるだけ役所へ赴き、直接話し合う機会を作っている。生活保護の取り扱いや家族のトラブル解決などの際には市の担当課と相談し、適切な助言を得ている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、利用者ごとの担当職員が手書きの手紙で利用者の状況を連絡している。季刊で写真を豊富に掲載した広報誌「いちごだより」を発行して事業所全体の様子を伝えている。金銭管理は家族の来訪時に確認を得、来訪が遅くなる時には手紙と共にコピーを送る。職員の異動については通知文を送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各ユニットの入口に意見箱を設置しているが、多くの意見は家族が来訪した際や電話での話し合いの中から聞き出される。家族から提起された意見は連絡帳に記載すると同時に、重要と判断されたものは報告書を作成して管理者を中心に対策を協議し、結果を家族に報告し、全職員に周知する。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は職員の異動を最小限に抑えており、離職があった時は管理者とも問題点を協議して離職を防ぐ努力をしている。新人教育では本人の意向や事情を斟酌して離職につながらないように配慮している。親しくしていた職員が離職して気落ちしている様子が見える利用者には、職員が接触を多くして不安を和らげている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勉強会担当職員を置いて年間計画に基づいて毎月1回の勉強会を実施しているほか、ユニット会議などに合わせて適宜ミニ勉強会を行っている。また法人合同の勉強会が年に数回開かれる。外部研修は案内が来たごとに職員に紹介して希望者を参加させており、各職員年に2回程度参加している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>清田区のグループホーム管理者会議に参加し、研修会などで同業者と交流している。清田区内のグループホームでは年に1回の発表会行事が開催され、一般職員、利用者も参加して健康体操、歌、展示などの発表の催しが行われている。法人内グループホーム同士の交流も定期的に行われている。</p>		<p>清田区のグループホーム間で相互訪問による交換研修を検討中とのことなので、その実現に向けて働きかけを強めることを期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居の相談があった時にできるだけ本人同伴での来訪を求め、事業所の雰囲気を見てもらいながら説明をする。本人が来訪できない場合には管理者が訪問して面接する。入居が決まった時点で再度の事業所見学を勧め、事情が許す限り何度でも来訪して馴染みを深めるよう勤めている。入居の当初は職員が関わりを多く持ち、他の利用者との仲を取り持つなどして不安の解消に努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者もそれぞれに役割を持って職員と一緒に仕事に参加することで共に支え合う関係を築いている。食事に関連する準備や後始末、洗濯関連、畑仕事などの役割が割り振られている。また職員は利用者を人生の先輩として敬い、学ぶ心を持って接し、生活の文化や行事のしきたりなどを教わっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろ利用者との信頼関係を大事にしながら思いや意向を把握することに努めており、コミュニケーションの難しい利用者は表情や仕草から読み取り、自分に置き換えるなどして判断している。入浴の機会などを利用してゆっくり話すことで本音を聞き出すことに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	初期の介護計画は医療情報、在宅サービスの情報、家族からの情報を収集して管理者がアセスメントを行い、それを基に原案を作成している。本人・家族の意向を入れた介護計画はケアマネジャーと計画作成者に確認後、家族、そして可能な限り本人にも説明し同意を得ている。職員に内容を伝達し、経過を見て1ヶ月後に見直している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の担当職員がモニタリングで評価したものをカンファレンスで話し合い、家族とも話し合う中で介護計画を見直している。毎月修正を加えるなどして介護計画を作成し、確認印をもらっている。骨折などの入院治療後ケア内容が大幅に変わる時はアセスメント及びカンファレンスを行い、新たに介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の希望に応じて受診の送迎を行っている。身寄りがない利用者への後見人仲介や遠方の家族が事業所内のゲストルームで滞在できるように配慮したこともあり、利用者の事情に応じて必要なことに対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>週2回の協力医療機関の訪問診療があり、いつでも連絡が可能な態勢になっている。他の医療機関や他科の受診を希望する場合にはそれに沿い、受診時に付き添って主治医と連携を取っている。診療内容は家族に報告しており、職員は健康管理の記録などを参考に情報を共有している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居の際に、重度化した場合の対応と看取りについての考えを文書で説明し同意を交わしている。利用者の状態から主治医の説明を受ける中で今後の方針を家族と共に話し合っている。点滴など医療行為が続く場合は入院治療の方向を確認し、職員間でも方針を共有している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日常の声かけや排泄場面で誇りを傷つけないように心掛けている。名前の呼び方や口調、態度などが馴れ馴れしくならないように管理者は注意し、年配者として敬う態度を指導している。個人情報の書類などは適切に保管し、不要の書類は個人が特定できないように厳重に処分している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者が行動しやすいように目安になる食事や入浴の時間帯は決めているが、起床や就寝は利用者のペースに合わせている。必ず本人の意思を確認し意向に沿って対応している。地域の図書館に出かけたり家族との外食を楽しむなど、それぞれの希望に沿って支えている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材委託業者の管理栄養士が献立を作成しているが、週に1~2回は職員が利用者の希望を取り入れて食事を提供している。また畑で採れた季節の野菜類は食卓に彩りを添えている。簡単な調理、盛り付け、配膳や食後の片付けを職員と一緒にを行い、会話を楽しみ食事を共にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	脱衣場の床は暖かく快適に入浴ができるように整頓されている。10時半頃から夕方まで毎日入浴ができる態勢になっており、最低でも週に2回以上は入れるように、本人と相談をしながら対応している。特に入浴を嫌がる利用者はいないが、本人の意向で職員を替えて入浴介助をすることもあ		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事作業のほかに、畑作り、ベランダの雪かき、観葉植物の水やりなど、利用者は役割を持って積極的に行っている。生活歴などの情報から読書、書道、歌、絵、俳句などの得意なことを活かすように職員は関わっている。動物園や紅葉見物、バイキングなどの外出行事を楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季には近隣の歩道や公園に行き毎日のように散歩している。元気な利用者は冬も散歩に出ている。買い物、誕生日外出、ドライブの帰りに食事など、できるだけ外出の機会を多くし、長時間の散歩が困難な利用者もベランダで日光浴を楽しみ外気に触れるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、ユニットの入口に鍵をかけないでチャイムの音で出入りを確認している。外に出たい気配や利用者からの申し出がある時は付き添って出かけ、安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年に2回、消防署の協力の下で緊急対応マニュアルや緊急連絡網を活用して、日中と夜間を想定した火災避難訓練を実施している。訓練には利用者の参加や運営推進会議を訓練日に合わせて開きメンバーも参加している。一時的に避難する場所が決まっていないので検討しているところである。</p>		<p>運営推進会議で避難場所について話し合いを進めているので、近隣との協力の下に、一時避難場所について具体的に定めることを期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量と水分量は個人別に記録し把握している。水分量は好みも入れて補い、食事量が少ない時には食べている状態を観察して、食欲が増すように盛り付けの色合いや口当たりの良いものを工夫している。昨年の7月より管理栄養士が献立を作り栄養バランスを確保している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室が並ぶV字型の廊下が交わる所に居間と食堂の共有空間が配置され、トイレ、浴室は居間から離れた所にあり、プライバシーにも配慮された造りになっている。手すりの位置、水道の蛇口など利用者の使い勝手を考慮した設備で快適に過ごせるように工夫されている。窓からは雑木林が見渡せて季節の移り変わりや小鳥の鳴き声が聞こえる心地よい環境である。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>好みに合わせた職員手作りの表札が掛っている。各居室の窓から自然の景色が見渡せるように配置されており、備え付けのクローゼットに物が整頓されて過ごしやすい空間になっている。馴染みの家具類やテレビを持ち込み、家族の写真、趣味の作品、装飾などが飾ってあり、生活感がある居室になっている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。